

開催場所：DOM HENRIQUE DOWNTOWN HOTEL, Porto,ポルトガル

開催スケジュール：

3月5日09：00～18：15 PG-H&F 委員会、PG アクセラシー委員会、HG・PG 合同委員会、HG 委員会

6日09：00～18：15 PG-XC 委員会、ソフトウェア&スコアリング委員会

7日09：00～18：15 総会、各選手権立候補地のプレゼンテーション

8日09：00～15：00 総会、各選手権開催地決定

参加国：

現地出席：アルゼンチン、オーストリア、イギリス、イタリア、カザフスタン、韓国、北マケドニア、クロアチア、コソヴォ。スイス、スペイン、セルビア、チェコ、トルコ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブラジル、ブルガリア、ポーランド、ポルトガル、メキシコ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、米国、日本。28か国

委任状：アイルランド=>イギリス、アルバニア=>北マケドニア、ウクライナ=>ポーランド、エクアドル=>アルゼンチン、エストニア=>クロアチア、オーストラリア=>ラトビア、カナダ=>米国、スロバキア=>チェコ、スウェーデン=>ノルウェー、スロベニア=>イタリア、タイ=>カザフスタン、チリ=>ブラジル、デンマーク=>フィンランド、ニュージーランド=>ポルトガル、ベルギー=>フランス、ボスニアヘルツェゴビナ=>ブルガリア、マレーシア=>トルコ、ルーマニア=>セルビア。18か国

重要な討議・議決事項の結果（番号は ANNEXE の番号）：

次回総会 2027年3月3～7日 Rome,イタリア

## A) 全種目関連

**27F** 最低限の医療体制

昨年のカテ1大会での事故を受けて、最低限の医療体制を改善する案は承認された。

これまでは医療関連に関して、規定されていたが、新たに救助関連（例えば、ツリーランとか、崖の途中で墜落している場合に救助する）も規定し、装備も、通常のものだけではなく、HG/PGに関わるものも規定する。また大会開始前にCIVLが医者あるいは医療専門家を派遣して、必要な体制・装備がそろっているか、改善点が改善されているかをチェックして、場合によっては大会を延期、あるいは中止される可能性を残している。2027年1月1日以降の大会から適用。

#### 34C 大会における事故報告

データを多く収集し、分析して今後に生かす目的で、これまでのように主催者がEMSを通して報告するだけでなく、事故を起こした選手および目撃者もアップできるようにする。アップする項目は極力、EMSから自動入力され、またリストから選択する形式とし報告しやすいシステムとする。報告期限は大会終了後10日までとする。2026年5月1日以降、システムが出来次第カテ1およびカテ2に適用。

#### 41ESP4 コンプレインを電子的に送る

メールアドレスをローカルルールに明記し、コンプレインを電子的に主題者へ送ることを可能とする。  
2026年5月1日以降適用。

#### 41ESP6 大会に関するアンケート

大会終了後、参加選手に自動的にアンケート用紙（比較検討しやすいように標準化された）を送り、今後の大会を改善するために送り返してもらう。2006年5月1日以降、システムが出来次第適用。

41HUN2 装備（CCC,CSC,プロテクション等）の安全性を協議する作業部会を設置する提案に関しては、理事会に、一任することで評決はされなかった。

#### 41POL2 EMSのFORECASTに項目を増やす

現在あるEMSのカレンダーに掲載された大会をクリックすると「FORECAST」ボタンがあるが、それ

にその大会にエントリーした選手が全員参加して、それまでの実力通りの結果を出したとしたら、本人が何点の WPRS ポイントが得られるかを表示するようにする。2026年5月1日以降システムが出来次第適応。

#### 4 1 SLO1 チームリーダーの役務, 責任範囲

現在のルールではチームリーダーは、その国のチームメンバーと主催者の連絡役でその範囲で責任を負っているが、これをチームメンバー以外のその国の選手を含めた選手と主催者の連絡役となり、その範囲での責任を負うものとする。2026年5月1日以降適応。

#### 4 1 SLO9 選手のプロフィール写真

選手のプロフィール写真をてんでんばらばらではなく一定の基準に合わせたものとする。2026年5月1日以降適用。

### B)HG,PGXC,PG H&F 関連

#### 4 1 BUL2 コントロールゾーンに上限/下限高度を設定する

現況では、コントロールゾーン（ターンポイント、ライン、ゴール）は2次元で設定されているが、安全を考慮して、3次元（2次元プラス上限/下限高度）で設定可能とする。次回のヨーロッパカテ1大会から適応することが望ましい。

#### 4 1 E S P 2 大会主催者が自由にライブスコアリングシステムを選択できる

現況では、一つのライブスコアリングシステムが採用されているが、CIVL が定める技術的および規制上の要件を満たしていれば、よりエリアに適したシステムをし大会主催者が選択できることとする。2026年5月1日から適用。

#### 4 1 E S P 8 トラッキングシステム選定作業部会を改変する

現況、トラッキングシステムはハード・ソフト面で Flymaster 一社に依存している。近年複数のメーカ

ーやプラットフォームが登場し、多様化している。またFAIもオープングライダーネットワーク（OGN）をベースとした作業部会を設けている。これらを考慮して現在あるトラッキング作業部会をライブトラッキング企画及び安全要件検討作業部会と改名し、次の事項を念頭に作業する。

1. カテ1およびカテ2イベント向けリアルタイムトラッキングシステムおよびプラットフォームの最低限の技術基準を作成する。
2. 製造業者およびシステム向けの認証枠組みを作成する。
3. カテ1およびカテ2イベントに関する現実的かつ適用可能な規制を作成する。
4. CIVL代表者を指名して、OGN作業部会と協力し、装置規格の一貫性、冗長性、および規制との適合性を確保する。
5. 承認済みシステムリストを公開し、維持する。

#### 41SUI1 かさ上げたゴール

現況では、一昔前に安全性で問題となった、低高度でフルスピードでゴールすることを防ぐために設けられた、時間が止まるESSをゴールからある程度距離を取ったところに設けることとしているが、近年低高度でフルスピードでESSを切ることが常態化して、安全性を脅かすようになった。これを是正するために、ESSを設けずにゴールをバーチャル的にかさ上げして、かさ上げされた高度以下でゴールするとペナルティを科すシステム。デフォルトのかさ上げは300mとされ、かさ上げされた高度以上でゴールすればペナルティは無し。300以下でゴールするとペナルティ（300mでタイムポイントの0%、-300mで最大のタイムポイントの20%が減算される）が科される。詳しくは議題の原文を参照のこと。2026年5月1日から適用。

#### 41SUI2 より安全なストップタスク

現在のスコアリング計算式によれば、タスクがストップした場合、ストップした時刻にいる位置によっては、ゴールに向けて飛び続けることでポイントがアップする可能性がある。これは、安全上問題があるので、タスクストップしたら、それ以上ゴールへ向かってフライトしても有利にならないようにポイントが計算されるようなスコアリング計算式にする。詳しくは議題の原文を参照のこと。2026年5

月 1 日から適用。

#### 4 1 SUI4 WGS84 楕円体距離計算の近代化

現況で 2 地点間の距離計算に使用しているアルゴリズムは、実際には正確性や計算時間で問題があるのでより一般的で計算時間の短いアルゴリズムに変更する。2026 年 5 月 1 日から適用。ただし計器のファームウェアのアップデートは現状のものでもスコアリング的に問題がないのでメーカーに任せる。

### C)PGXC 関連

#### 2 7 A タスクセッター

現在、タスクはタスクコミッティーで決定されるが、これを、新たにそのエリアに精通している、タスクセッターと言う役職を設け（競技委員長あるいはセーフティー委員長が兼任することはできない）、その者が、基本的にタスクを決定することとする。タスクセッターに助言することのできる選手からなるアドバイスグループを設けることは可能。タスクセッターはそのエリアで良く行われているタスクあるいはあらかじめ作成したタスクを用意して、公式練習日あるいは大会最初のタスク 2 日前までに公表しなければならない。適用、PGXC カテ 1。2027 年 1 月 1 日から。

#### 2 7 B 新たなゴールを大会中に追加する

S7a、Paragraph 3.6.2 (Suitability of Goals) に特例として以下の条件が満たされるならば、大会中に新しいゴールを設定することを許容する可能とする。

スチュワードが、自身あるいはビデオにより、適切であると判断し、新しいゴールが出来るだけ速やか（少なくとも、タスク開始 15 分前まで）に、ウェイポイントリストにアップされ、タスクの QR コードに含まれていること。2027 年 1 月 1 日から、カテ 1 に適用とするが、カテ 2 に対して推奨する。

#### 2 7 D バラスト

昔の、バラスト重量を 33 kg 以下に制限すること。例外として安全かつ問題なくテイクオフが出るな

ら 95KG 迄バラストを積むことは可能とするルールが復活した。2027年1月1日以降開催のカテ1大会から適応。カテ2大会には強く推奨される。ただし、2029年1月1日以降、95KG は90KG に変更される。

#### 27E 軽量クラス

認証最大飛行重量が95kg以下の機体に乗る選手を対象とする「軽量クラス」を設けて表彰する。2027年1月1日以降に開催されるカテ1大会から適応。カテ2には強く推奨される。ただし、2029年1月1日以降は、90KG に変更される。

#### 34A カテ1大会の期間を短くする

現行のカテ1大会期間の最長を14日としているのを、最高10日とする。レストデイに関しては最初のチームリーダーブリーフィングで協議する。適用は2026年5月1日以降のカテ1およびカテ2大会であるが、既に期日の決定している大会を考慮して2029年1月1日以降に開催される大会から。

#### 40 スポーツクラス

CCCと同様に CIVL が規定するスポーツクラス (CSC) の基準と規定を定義し、安全性と公平性を確保しつつ競技参加の促進を目的とする。ただ単に EN-C 以下とすると、飛ぶのが難しい機体ができる可能性があり、また、EN 規準は競技志向で作られていないのでその基準を競技クラスの基準とするのははばかれるので、CIVL による基準を作成した。その主な内容は

- ・ EN 926-1 と EN-C 以下の EN 926-2 の認証を受けていること。
- ・ アスペクト比は 6.8 以下。
- ・ セル数は 67 以下。
- ・ 機体重量は最大離陸重量の 6.5%未満。
- ・ 空中で操作できるトリマーは認めない。
- ・ 2 ライナーには固定スピードリミッターが必要とされる。

2026年5月1日以前に EN-C 以下の認証済みのグライダー（ただし、最大認証飛行重量が75kg

のグライダーモデルで、それより大きいサイズ全部が EN-C の認証を取得していれば EN-D であっても例外として許容する) は上記基準 (2 ライナーのリミッターは除く) を満たしていなくても CSC として認められる。2028 年以降のカテ 1 大会では CSC または 2026 年 5 月 1 日以前に認証済みのグライダーのみ使用可能となる。

#### 4 1 GBR2 ライントリムの許容誤差を 10 mm とする

CCC および PGXC 大会に参加する機体 (2 ライナーに限る) に関して A ラインと B ラインの長さの基準値からの平均誤差を従来の  $\pm 20$  mm から  $\pm 10$  mm とし、トリム速度が速くなる方にずれていた ( $> -10$  mm) 失格、遅くなるほうにずれていた ( $> +10$  mm) 警告を受けることとする。提案は承認された。ただし適応時期について触れられていないが 2026 年 5 月 1 日以降となる。PWCA では既にそうしているとのこと。

#### 4 1 HUN1 コンペハーネスのプロテクション

コンペハーネスのプロテクションが十分安全でないのをより安全にするため衝撃吸収試験のしきい値をより安全サイドに変更する。本来ならば、EN の作業部会の新基準を待っていたのだが、すぐには出てきそうにもないので既に顕在化している問題を是正するために CIVL が率先して規準を作成する。その基準の内容は：

- ・ダミー姿勢 22.5 度時の最大加速度衝撃荷重 3.5 G
- ・ダミー姿勢 75 度 (寝そべった状態) 時の最大加速度衝撃荷重 4.5 G
- ・ダミー姿勢 22.5 度時の最大 SIC 値 1.5

#### 4 1 SRB1 チームサイズおよび割り当て手順

現在ディフェンディングチャンピオンや WPRS トップランク女子パイロットが通常の各国枠以外として参加が認められており、強豪国に有利になっているのを是正する。その内容は；

- A) 1. チームメンバーは 3 人 (固定) とする (ただし、世界、大陸により変更も可能でローカルルールに明記する)

2. チーム成績は各タスクでの3人のうちのベスト2人の合計点

3. チームメンバーはどちらの性別でも構わない。

B) チームメンバー以外に女子1名を追加可能

C) 1. 最初の割り当ては、WPRS 国別ランキングにより行われる

2. 大会最大参加選手数により左右されるが国別ランキング34位までの国が3人チームメンバーと追加女子1名をエントリーできる。

2. 期日までにエントリー支払いがされて、なお枠が余ったら、国別ランキングのそれ以降の国からエントリーを受け付ける。

適用は理事会の承認を得たうえで次回 XC 選手権から。

#### 承認された選手権

- ・第3回 PGXC ジュニア世界選手権：スペイン、Pegalajar、2028年5月14～22日
- ・第19回 PGXC ヨーロッパ選手権：ポルトガル、Larouco、2028年7月22～8月4日
- ・第8回 PGXC パンアメリカン選手権：メキシコ、Tapalpa、2028年11月11～19日
- ・PGXC アジアオセアニア選手権：カザフスタン、Tekeli、2028年6月

#### D) HG 関連

##### 4.1 GER6 HG の耐空性基準の改定

現況の耐空性基準は20年以上も前のものなので、新規開発や新素材を使用する可能性を拓くために改定する。

・グライダーに関しては；スプログの許容誤差を現在の1度から0.25度に厳しくする。また使用するワイヤーのサイズや取り付け場所に関する制約を廃止する。

・ハーネスに関しては；サスペンションラインを含んで最低強度を9G、バックアップラインの最低強度は6Gとする（1Gはフックイン重量）

##### 4.1 USA ストップタスクのスコア

クロックスタートタスクでタスクストップになった場合の得点計算のもととなる時間に関して明確化する。S7Fの13.3.4にある「採点には、最後の公式スタートタイムからタスクストップタイムまでの時間」とあるがこの公式スタートタイムとは、最後のスタートゲート時刻あるいは少なくとも1人の選手がスタートしたスタートゲート時刻である。

#### 承認された選手権

・第23回HGクラス1ヨーロッパ選手権&第12回HGクラス5世界選手権：北マケドニア、Krushevo、  
2028年8月5～18日

#### E) PGH&F 関連

##### 33 H&F のスコアリング

現況のH&Fの採点はフレキシブルで、大会において、1日1タスクであったり、数日で1タスクであったりと混合されることもある。そこで、そのような場合にスコアリングをどうするかとの提案。

2026年5月1日以降適用。詳細は議題の本文を参照。

#### F) PGA 関連

##### 31A ランディングの明確化

S7Cの1.1.4.1にある、「パイロット、その装備（スピードバー、フットバー、牽引ヨークを除く）、または翼のいずれかが初めて地面に接触した時点...」とあるのを「パイロット、その装備（ハーネスを含むが、スピードバー、フットバー、牽引ヨークは除く）、または翼のいずれかの部分が初めて地面に接触した時点...」と変更する。2026年5月1日から適応。

##### 31B 着地後の風速

現状では、着地前の30秒に関して、規定風速を超えた場合にリフライトが認められているが、風速計の位置や場合によっては着地後に突風が入ったりしてフォールとなることが実際に起きているので、そのリスクを是正するために着地後の5秒以内に規定風速を超えた場合にもリフライトを認めることと

する。適応は、2026年5月1日以降のカテ1およびカテ2。

### 3 1 C 靴底の細工

現状では底からの突出長さは8mmであるが、最近のパッドの破損頻度を考慮して6mmに変更する。

適応は、2026年5月1日以降のカテ1およびカテ2。

### 3 1 D マスタークラス

現状ではカテ2大会ではマスタークラスを表彰することは許されているが、これをカテ1大会でも許されるようにする。適応は、2027年1月1日以降に開催される大会から。

### 4 1 CRO1 ノックアウトシステム

やめることとなった。2026年5月1日以降開催される大会から適応。

### 4 1 MAS1 2バンド以上の無線機

コーチングを回避するために、2バンド以上の無線機を使用する場合、すべての周波数を安全周波数にロックすること。2026年5月1日以降適応。

### 4 1 SLO2 ジャッジの経験実績

現況は厳しすぎて該当者はごく限られているのでこれを緩和する。2026年5月1日以降適用。

### 4 1 SLO3 S7C に出てくる地面の明確化

1. 1. 4. 3に「フォールとは、パイロットの身体の一部（足を除く）または装備品（スピードシステム、ストラップ、牽引ヨークを除く）が、翼が地面に接触する前、または競技者がターゲットの中心から10m 離れる前に地面に接触した場合を指します。」の後に「地面とは、地球の固い表面のことです。木、風向計、風速計などの障害物は地面ではありません。パイロットが障害物に接触しても飛行を継続すれば、フォールのペナルティを受けることなくターゲットへ向かって飛行を続けることができます。」

を追加する。適応は2026年5月1日以降。

#### 4.1 SLO4 テイクオフ順

現況では、チームリーダーはチームメンバーのフライト順を決めているが、これをチームメンバーを含む自国の選手全員（つまり、個人参加の選手も含めて）のフライト順を決めると変更する。2026年5月1日以降適応。

#### 承認された選手権

- ・第10回PGA ヨーロッパ選手権：モンテネグロ、Budva、2028年9月30～10月7日
- ・PGA アジア選手権：中国、Jingmen、2028年9月16～24日
- ・第3回PGA パンアメリカン選手権：アルゼンチン、San Jorge、2028年5月1～11日

#### G) その他

4.4A USA から出されていた HG ディプロマを Steven Pearson に贈ることは承認された。

#### 4.6A アスリート作業部会 (AWG)

FAI 内にアスリートの声を反映させる目的でアスリート委員会を設置する前段としてアスリート作業部会を設置する。その委員は FAI の各委員会 (CASI を除く) の代表 1 名とする。CIVL からの代表は北マケドニアの Martin Jovanoski とする。

4.6B FAI 重大インシデント対応方針に関して説明がなされた。